

NCTアグリの推奨するアミノ酸・核酸資材の使用方法

育王・韋駄天液肥441・アミトップは灌水で
 花果神・ばわみへのG1号は葉面散布で

	生育ステージ					(10a当り使用方法)
推奨資材/作物名	育苗～定植	定植後～	収穫はじめ	収穫最盛期	収穫後半	
野菜・花き	育王（灌水処理 1回） 1000倍以上希釈液 の灌水で根を増やす。 欠株対策と 初期生育の揃いの改善	韋駄天液肥4 4 1（灌水）でなり疲れ回避・樹勢維持・歩止まり向上 1週間間隔の場合1kg/10a 2週間間隔の場合2.5kg/10a アミトップでアミノ酸補給（葉緑素増加・光合成促進） 生育状況を見ながら 5～10kg/10a灌水				
		ばわみへのG1号100～250 g /10a 1000倍希釈液で葉面散布（アミノ酸で健全な生育）				
		花果神小袋1袋を100～250ℓに希釈して葉面散布（花芽形成・実の肥大・着色促進）				
推奨資材/作物名	育苗～定植	定植（発芽後）～	幼穂形成期～出穂後			
穀類 米・麦・豆類	育王（灌水処理 1回） 1000倍以上希釈液 の灌水で根を増やす。 欠株対策と 初期生育の揃いの改善	花果神小袋1袋10a～25aに使用（登熟促進と歩止まり向上） （ドローン散布等高濃度散布可）防除の際薬剤と混用して使用 1回散布の場合、花果神小袋1袋を10aに使用 2回散布の場合、花果神小袋1袋を20aに使用 3回以上散布の場合、花果神小袋1袋を25aに使用				
		ばわみへのG1号250 g /10a 1000倍希釈液で葉面散布 （定植後～幼穂形成期の防除時に混用 月2回以上の散布） ・ グリシンが葉緑素を増やす グルタミン酸が光合成を促進				
		アミトップの穂肥 水口施肥で（10kg/10a:生育状況に応じ適宜増減すること）				
推奨資材/作物名	苗木定植時	発芽・開花・結実期	果実肥大期・成熟期		養分蓄積・休眠期	
落葉果樹	育王（灌水処理 1回） 1000倍以上希釈液 をどぶ漬け又は植穴灌水 欠株の改善	開花前・落花後 花果神小袋1袋を 250ℓに希釈して葉面散布 花粉の生成・着果率の向上 及び遅霜対策	花芽分化期に 花果神小袋1袋を 250ℓに希釈して葉面散布 翌年の花芽の充実を図る	ばわみへのG1号を貯蔵養 分蓄積のために1～2回 葉面散布 250g/10a使用（1000倍）		
推奨資材/作物名	苗木定植時	休眠期（花芽分化期）	春枝伸長期	開花結実期	果実肥大・成熟期	
常緑果樹 （柑橘等）	育王（灌水処理 1回） 1000倍以上希釈液 をどぶ漬け又は植穴灌水 欠株の改善	花芽分化期後半から開花結実期 花果神小袋1袋を250ℓに希釈して葉面散布 花粉の充実・着果促進				
		ばわみへのG1号 250gを1000倍に希釈して葉面散布 5種のアミノ酸が気象変化に対応して健全な生育を促す。				

育王	韋駄天液肥441
植物根生育促進剤 1000倍以上に希釈した液 を根に触れるようにたっぷ り灌水する。 根が増えることで、活着が 良くなり定植後の生育が 揃ってくる	育王の機能を持たせ、点滴 灌水でも使用できるアミノ 酸、亜りん酸を原料に使用 した液肥 根を増やす効果は葉面散布 では発揮できない為灌水で 使用する
荷姿：1kg・300g・ 5kg・10kg	荷姿： 10kg

アミトップ
窒素5%の液体肥料 アミノ酸の中で最軽量のグリ シンを主原料に尿素を添加 グ リシンは葉緑素の合成に関 わっており、施用後葉色が 早く出る。 葉面散布の場 合は500～1000倍で使用
荷姿：20kg

ばわみへのG1号	花果神・花果神L
グリシン・グルタミン酸・アラニン・ア スパギン酸・プロリンの5種の アミノ酸が主成分の窒素成 分5%の液肥 グリシンが葉緑素を合成し、 グルタミン酸が光合成を活発に する 日照不足等環境スト レス対策資材 葉面散布で使用する	高純度アミノ酸のプロリンを主原料にした葉面散布材。 花果神は粉状 花果神Lは液状肥料である。 （N7% P1%保証） 2銘柄共とも小袋1袋に入るプロリン量は同じ。 プロリンは植物の花粉に多く含まれている事から生殖生 長に関与している。 アミノ酸の中では最も水によく溶け、植物体の細胞液 濃度を高めることから 高温や低温、日照不足等のストレス対策になる
荷姿：1kg	荷姿：花果神10g×10袋（小箱） 花果神L18g×10袋（小箱）：Lボト72g×6本（小箱）